

●ブログ「古田史学の継承のために」議論の記録5

2017年8月3日(木)

朱鳥の大火記事のことなど(大下さん)

<コメント>

川瀬さん

ご理解いただき有難うございます。

なお難波宮遺跡について最近調べたことを下記します。

<文武の難波宮行幸記事>

大阪歴博の金曜講座で以前次のような話を聞いたことがあります。

1) 文武の難波宮行幸記事から昔は「前期」と「後期難波宮」の間に「中期難波宮」が存在したとの説があった。

2) しかし、朝堂院発掘の時に全面的に焼け跡が見つかったことから、この焼け跡が「書紀」の朱鳥大火記事を裏付ける証拠となり、「中期難波宮」の説は消えた。

川瀬さんの「洛外日記の古賀氏と李陽浩氏の話」のところを読んで、李氏が別の講演で、「後期難波宮は前期難波宮とまったく同じ平面に建てられていて、朱鳥の火事(686年)と後期難波宮の建物の建設開始時期(726年頃か)が余りにもあいている。発掘状況から見ると大きな疑問が残されている」と話されていたことを思い出し、歴博で発掘報告書を調べてきました。

報告書を書いたのが李陽浩氏です。

<朝堂院発掘報告のコメント>

李氏は報告書『難波宮址の研究』第十三第IV章「遺構の検討」95頁に「前期難波宮焼失後の整理作業は、実は後期難波宮直前になされたのではないか、という可能性がある」と記しています。

<朱鳥の大火記事>

書紀天武紀では朱鳥大火記事の後でも、宮殿が全焼したにも関わらず、何事もなかったかのように朝廷行事が淡々と行われています。

これらのことから、「書紀」にある朱鳥の大火記事は、実は博多湾にあった難波長柄豊崎の宮が焼けた記事で、上町台地の火事ではなかった。「天武の時作られた上町台地の宮殿は686年時点では焼けていなかった」と思えます。

もっとも何故、「後期難波宮建設直前に起きていた上町台地の火事記事が『続日本記』に記されなかったのか」の疑問は残りますが。

ご参考までに朝堂院発掘報告書の該当箇所を別途メールします。

投稿： 大下隆司 2017年8月3日(木) 17時06分

コメント

大下さんへ

『続日本紀』の文武が難波行幸した記事を確認しました。

1：『続日本紀』巻一文武三年（六九九）正月癸未廿七癸未。詔授内薬官桑原加都直廣肆賜姓連。姓賞勤公也。▼是日。幸難波宮。

2：『続日本紀』巻一文武三年（六九九）二月丁未丙戌朔廿二二月丁未。車駕至自難波宮。

天武が作った難波宮は文武三年までは確実にあったのですね。つまり藤原宮ができるまで天武と持統とが暮らした宮が難波宮だったということです。

すでに九州王朝にとって代わっているなのでその実在を隠す必要のない『続日本紀』は、かなり正確に歴史の真実を記しているということでしょうか。

投稿： 川瀬健一 | 2017年8月5日(土) 12時26分

肥沼さんへ

僕のサイトに、「●書紀天武紀・持統紀宮関係記事を精査する」をアップしました。驚くべき事実が浮かび上がってきましたよ。

このブログに新しいスレッドを立てて、そこから pdf ファイルをダウンロードできるようにリンクしてください。

アドレスは、<http://kawa-k.vis.ne.jp/2017806tenmu>

この際に、「はじめに」と「まとめ」のみ文章全文掲載して頂けると幸いです。

投稿：川瀬健一 | 2017年8月6日(日)16時47分

川瀬さんへ

コメントありがとうございます。

またまた大発見ではないでしょうか！

8月6日は、2017年夏からは「発見の日」になりましたね！

さっそくリンクして掲載するとともに、「夢ブログ」の記事にもさせて下さい。

投稿：肥さん | 2017年8月7日(月)00時04分

大下さんへ

『続日本紀』の「難波」記事全体を確認してみました。

これによって天武の「難波宮」（作られた時代からこう呼ばれていたかどうかは疑問です）がいつまで存在し、いつごろ焼失したかがある程度絞ることができました。そして焼失した原因と、焼失が史書に書かれなかった理由も。

のちほど簡単な論文にまとめます。

聖武の時代でもまだ天武の「難波宮」は存在したようです。焼失時期は、聖武がこの宮を改造しようとした時ではないでしょうか。失火かな？

投稿：川瀬健一 | 2017年8月11日(金)00時02分